

2019年3月27日（水曜）

# 全労金2019春季生活闘争ニュース・第23号

《合意速報No. 5》

## セントラル労組が金庫との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

セントラル労組は、3月27日9時30分から、事業体と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

		要 求			回 答		
		正職員	準職員	サポート職員	正職員	準職員	サポート職員
基本賃金		18～25歳を対象に 8,000円の引き上げ	昇給額2,000円 の引き上げ		18～25歳 5,000円	昇給額1,000円	
一時金		4.5	4.5	4.0	4.5	4.5	4.0
昨年実績		4.5	4.5	4.0	4.5	4.5	4.0
安定雇用	無期転換	—	(実現)		—	(実現)	
	登用制度		(実現)			(実現)	
最低賃金		時間額1,050円、日額7,700円、 月額161,700円への引き上げ			時間額1,030円、日額7,550円 月額158,600円		
雇用環境	ジョブ・リターン	(実現)			(実現)		
	年休積立	(実現)			(実現)		
	私傷病休職	—	(実現)		—	(実現)	
公正処遇	年休	—	(実現)		—	(実現)	
	生休		(実現)			(実現)	
	母性保護		(実現)			(実現)	
単組独自要求		ハラスメント対策委員会の設置			継続協議		

団体交渉において、協会からは「最低賃金については、連合方針やこれまでの引き上げ状況を踏まえた回答としている。基本賃金については、10年ぶりの引き上げ要求であると認識しているが、職員の採用と定着のために、若年層の引き上げが必要という要求主旨は十分に理解できるものと考え、回答した。年間一時金については、1年間中央機関の役割発揮のために力を尽くした組合員に感謝するとともに、労金業態を取り巻く環境は厳しいものの、労使で課題を乗り越えていくための期待を込め、要求通りの回答としている。男女平等参画に向けた要求については、ハラスメントのない職場風土に向けて労使が協力して取り組む重要性については認識しており、回答書の通り取り組んでいきたい。なお、2019年度中に労使で整理することとしているが、2019年度の早い時期に整理していきたい。事業体としては、業態で働く組合員が働きやすい職場をめざしていくことは、事業体としても必要なことだと思っている。よりよい労使関係、信頼感ある

労使関係のもとに今後も労使協議を重ねていきたい」等の見解が表明されました。

酒井闘争委員長は、「2019春季生活闘争は、これまでの運動を継続し、全労金組織全体で取り組む“統一闘争”として進めてきた。中央機関の主体的な姿勢として、回答期限日に回答書が示されたことに敬意を表したい。賃金に関する要求について、労働金庫を取り巻く環境が非常に厳しい状況の中で、我々の要求主旨を理解し、一定の改善がはかられる回答が示されたこと、一時金は要求どおりの回答が示されたことについて、労働組合としてしっかりと受け止めたい。労金業態が直面している現下の厳しい環境を乗り越えるために、中央機関の果たすべき役割や、具体的な行動について、今後も労使で追求していきたいと考えている。2019春季生活闘争における中央機関とセントラル労組との交渉は、本日をもって基本合意を表明するが、全国の金庫・単組では今もなおそれぞれの立場で激しい議論が展開されている。全国の仲間と一丸となって、すべての金庫・単組が円満解決できるまで、闘争体制を維持する考えである。加えて、今春季生活闘争を通じて労使で展開した密度の濃い議論や、継続検討となっている事項については、よりよい仕組みや職場環境の整備に向けて知恵を出していきたい」等を表明しました。

単組は、①最低賃金は、現状の時間額1,000円から一定の改善がはかられたこと、②正職員の基本賃金は、一定の改善が図られたこと、③嘱託等職員の基本賃金は、正職員との格差是正が前進したこと、④年間一時金は、要求通りの回答となったこと、等から基本合意を表明しました。

\*合意単組（5単組／3月27日14時10分現在）

長野・北海道(金庫・関連)・四国・沖縄・セントラル

以 上